- ・ 育児の楽しさや大変さなど、保護者の気持ちに寄り添い、発達に対する不安や戸惑いを受け止め、 共に子育てを進められるよう保護者との関係づくりに努める。
- ・生理的欲求を満たすとともに、声をかけたり、スキンシップをしたりするなどの対応の仕方や大切 さを知らせていく。
- ・子どもの24時間の生活が相互に分かるよう連絡ノートを活用して、睡眠、授乳、便、機嫌、体調の変化等について、共有する。

教育的意図をもった働きかけ	知の視点から	・おむつ交換や授乳時などは「○○しようね」など言葉をかけながら関わる・音の出る玩具や動くものを見せながら優しく言葉をかける・視線を合わせ、子どもの表情や動作に応じた言葉がけを表情豊かに行う
	徳の視点から	 保育者が優しく言葉をかけながら、穏やかな雰囲気で哺乳したり、眠らせたりすることで、安心感、信頼感を育む ふれあい遊び等で、スキンシップを図り、心地よい経験ができるようにする 一人ひとりの生理的欲求を十分に満たしながら、気持ちを受け止めることを大切にする 意図的に同じ保育者が関わることで、愛着関係を築き、安心して過ごせるようにする
	体の視点から	 ・視覚や聴覚等を刺激するような働きかけをする ・個々の発達の状況に合わせ、少しの間うつ伏せで過ごす時間をつくる ・体調や機嫌を見て、外気に触れる機会を作り、外気に慣らしていく ・食欲、睡眠、排泄等一人ひとりの生活リズムを大切にしながら、安心して機嫌よく過ごせるようにする ・着替えやおむつ交換等、体の健康や清潔を保ち、快の感覚(気持ちよさ)を育てる ・睡眠中はうつ伏せにしないよう体位変換し、寝具の掛け方や、呼吸、顔色、嘔吐の有無等、睡眠状態をきめ細かく観察し、窒息等の事故を予防する ・避難訓練の際には、不安感を与えないようにしながら、抱っこ等で避難し、安全を確保する

(3か月頃 ~ 6か月頃)

••••	• • • • •	•••••••••••••••••••••••••••••••••••••••		
	○身近な人にあやされたり、声をかけられたりすると喜び、自分でも声を出す			
ねらい	○特定	の大人に親しみや安心感をもち、安定した気持ちで過ごす		
	○飲む	○飲む、寝る、遊ぶなど安定したリズムで機嫌よく過ごす		
		発達のめやす (3か月頃~ 6か月頃)		
子どもの育ち	知	○唇を閉じて、音が出せるようになり、喃語が出始める○快、不快を感じると、表情や泣き声で表す○身近な人の顔が分かる○周囲の物に関心をもち、手を伸ばして触れようとしたり、手に持ってなめたりする○聴き慣れた声や音、音楽に反応し、微笑んだり手足を動かしたりする		
	徳	○自分から相手に微笑みかけるようになる○泣いていても、保育者があやすと安心して泣き止む○周囲にいる大人が分かるようになり、初期の人見知りが始まる		
	体	○腹ばいにすると肘で上半身を支えることから、徐々に手のひらで上半身を支えるようになる ○足で空間を蹴るようにして腰をひねり、寝返ろうとする ○引き起こしに頭が遅れないで上がり、両足も対称的に腹部に引き寄せられるようになる ○親指が外側に出て、物をしっかりと握れるようになる ○手と目の協応が始まり、見た物に手を伸ばすようになる ○体温は安定し始めるが、周りの気温変化の影響を受けやすい ○眠っている時と目覚めている時がはっきりと分かれ、昼夜の区別がつき始めてリズムが定まってくる ○胃の入口がしっかりして、授乳後の溢乳が減ってくる ○舌の前後の運動に加えて顎の動きを連動させて、母乳やミルクを飲む ○よだれが出始める ○母乳やミルク以外の味(スープや果汁)を、スプーンで少しずつ口にする (5~6か月) ○味覚が芽生え、味の違いが分かり始める (5~6か月)		
経験させたい主な活動	・体調や天候を考慮しながら戸外へ出て外の環境に触れる ・保育者と一緒にふれあい遊びをする(赤ちゃん体操、くすぐり遊び、ベビーマッサージ) ・鮮やかな色彩の玩具、音の出る玩具、握りこむ玩具を持つ ・仰向けや腹ばい、一人座り等の姿勢で遊ぶ			

- ・子どもの家庭状況に合わせながら、安定した睡眠、食事、運動の生活リズムをつくっていけるように 家庭と連携していく。
- ・体調の変化を見逃さず、適切に対応するとともに、疾病への対応や予防法等、保護者に知らせる。
- ・睡眠時のうつ伏せ寝や寝具の掛け方等に気を付け、窒息等の事故を予防し、睡眠時間を一定にする ことの大切さを知らせる。

・子どもの表情、動きに対して、保育者が意図的に、ゆっくりした声かけ、笑顔での働きかけ をすることで、情緒の安定や人や周囲への関心を育んでいくようにする 知 の視点から ・素材、大きさ、形、色、音質等、子どもの発達に適した玩具を用意し、遊びを通して様々な 感覚を育んでいくようにする わらべうたやふれあい遊びを一緒に楽しみ、繰り返しすることで、心地よい音を感じること ができるようにする ・目覚めたときは、穏やかに話しかけるなど、「目覚め」を快いものにしていく 徳の視点から ・優しい言葉、声、笑顔での働きかけ等を通して、情緒の安定や人との心地よい関わり、周囲 への関心を育んでいくようにする 教育的意図をもった働きかけ ・特定の保育者が、一人ひとりの出すサインや表情を見逃さず受け止め、優しい言葉や笑顔 で、応答的に丁寧に関わり、信頼関係を築くようにする ・子どもの状態に合わせて、腹ばいの姿勢を安定させたり、寝返ろうとする時に手を添えて援 助したりするなど運動機能の発達を促す ・物を追視したり、玩具をつかんだり、なめたりなどの感覚の働きを豊かにするような遊び が、十分にできるような環境を整える ・食欲、睡眠、排泄等生理的欲求を満たし、一人ひとりの生活リズムを大切にしながら安心し て機嫌よく過ごせるようにしていく 体の視点から ・着替えやおむつ交換等、身体の健康・衛生を保ち、快の感覚(気持ちよさ)を育てる ・睡眠中は、うつ伏せにしないよう体位変換し、寝具の掛け方や、呼吸・顔色・嘔吐の有無等、 睡眠状態をきめ細かく観察し、窒息等の事故を予防する ・自分で動くようになるので、寝返って落ちないようにしたり、何でも口に入れ始めるので口 に入るような小さい物等、危険につながる物をそばに置かないようにしたりする ・避難訓練の際には、不安感を与えないようにしながら、抱っこ等で避難し、安全を確保する ・離乳食は、1 さじから始め、便、体調、飲み込みの様子を見ながら、無理のないように進め る (5~6か月)

(6か月頃 ~ 9か月頃)

	· · · · · ·			
ねらい	○保育者の話しかけを喜び、喃語を発することを楽しむ○保育者に十分関わってもらい、安心して過ごす○寝返りをする、はう、座るなど体を動かして遊ぶ○いろいろな食品の味や形態、スプーンに慣れる			
		発達のめやす(6か月頃~ 9か月頃)		
子どもの育ち	知	 ○言われていることがだんだんと理解できるようになってくる ○「アバシジ」「マンマンマ」等、反復的な喃語を発する ○大人の口元をじっと見る ○名前を呼ばれると振り向く ○物を落とすなど、気に入ったことを繰り返す ○引き出しの中の物を引っ張り出して遊ぶ ○機嫌がよいと一人遊びをする ○周囲の物を触ってみたり口に持っていったりする ○戸外に出ることを喜ぶ ○音楽を聴いて、心地よさを感じる 		
	徳	○親しい人とそうでない人の区別をする○「バイバイ」、「いないいないばあ」等の動作をまねる○要求があると声をあげる○人見知りをしたり後追いをしたりする○人の動きを目で追う		
	体	 ○背中を反らして手足を上げる(グライダーポーズ) ○うつ伏せの状態で爪先を使って床を蹴り、反対の手で体をねじってお腹を中心に左右に回転する(ピボットターン) ○寝返り、ずりばいでの移動からはいはい、つかまり立ちをする ○お座りが安定する ○支えて立たせると足を踏ん張る ○指先で物をつかんだり、手を打ち合わせたり、持った物を持ち替えたりする ○午前と午後、だいたい同じ時間に寝起きをするようになる ○大人が支えるとコップで飲めるようになる ○離乳食をスプーンで食べさせてもらうと、舌を使ってつぶして食べる 		
経験させたい主な活	・握りやすい玩具(タオル人形、布ボール等)、音が出る玩具で遊ぶ ・絵本に触れる(動物や乗り物、食べ物等、写真や具体物が描かれているもの) ・揺さぶり遊びやふれあい遊びなどを保育者と一緒にする ・ずりばいやはいはいを十分に行う ・戸外へ出て、外の空気や匂い、風に触れる			

- ・子育てについての不安や悩みは一人ひとり違うことを理解し、保護者の思いに寄り添いながら、それぞれに応じた配慮や支援を行う。
- ・子どもの状態や生活の様子をお互いに伝え合い、連携して子育てを進めていく。
- ・離乳食を進めるにあたり、子どもの状況に合わせながら家庭でいろいろな食材を試してもらい、アレルギー反応がないことを確認するよう依頼する。
- ・感染症など子どもがかかりやすい病気について知らせ、感染予防や罹患したときの具体的な対応を伝える。

・喃語を発したときに、受け止め応答的に関わり、発語を促していく ・遊びや生活を通して、具体的に身の回りの物の名前、動作等を語りかけていく 知の視点から ・身近に絵本を用意し、保育者と一緒に見る経験を繰り返す事で、絵本への興味を膨らませ ・興味を引く玩具などを準備し、手を伸ばして触れたいという意欲や好奇心を育む ・いろいろな色、感触、動きの物に触れたり、心地よい音や音楽を聴いたりする環境を用意 し、視覚、聴覚、触覚を刺激する ・同じ保育者が関わることで、特定の大人との愛着関係を築き、安心して過ごせるようにす 徳の視点から 教育的意図をもった働きかけ る 事例1 ・人見知りや後追いなどで、子どもが不安を表したときは、抱きしめるなど温かく受け止め て安心感がもてるようにする ・寝返りや、ずりばいや四つばいを十分にできる環境を整え、危険のないように安全面につ いての点検、確認を行う ・一人ひとりの家庭での様子、健康状態に合わせて睡眠をとり、安定した生活リズムをつく っていく おむつが汚れていたら、優しく言葉をかけながら交換する 体の視点から ・睡眠中は、うつ伏せにしないよう体位変換し、寝具の掛け方や、呼吸・顔色・嘔吐の有無 等、睡眠状態をきめ細かく観察し、窒息等の事故を予防する ・避難訓練の際には、不安感を与えないようにしながら、抱っこ・おんぶ・避難車等で避難 し、安全を確保する ・一人ひとりの様子に合わせて離乳食を進め、いろいろな食べ物の味、調理形態に慣れるよ うにする ・自分で食べたいという意欲がもてるよう、手づかみで食べようとすることを見守り、「お いしいね」などの言葉をかけていく

(9か月頃 ~ 12か月頃)

ねらい	○身近な人や物に興味をもち、探索活動を楽しむ ○指さしや発声で要求を伝える ○保育者との安定した関わりを基に、周りの大人や友達に興味をもつ ○はいはい、伝い歩き、つかまり立ち等、移動活動を十分楽しむ ○離乳食が進み、自分で食べようとする			
		発達のめやす (9 か月頃~12 か月頃)		
子どもの育ち	知	 ○「マーマー」「ダーダー」「マンマ」等、反復的な言葉を発する ○要求の指さしや発声が見られる ○「いないいないばあ」をして、見えなくなった大人が出てくるのを期待する ○物をつかんだり、引っ張ったり、容器に出し入れしたりする ○物を打ち合わせたり積んだりする ○物を布などで隠すと中身を確かめようとする ○自他を区別できるようになる ○自分でやってみたい気持ちが芽生える ○絵本を保育者と一緒に見て、身近な物を見つけ喜ぶ ○親しみのある音楽を聴き、身体を動かして楽しさや喜びを表現する 		
	徳	○相手のしていることに興味を示し、自分もしようとする○相手から「ちょうだい」と求められると物を渡そうとする○他の子どもが持っている物を触ったり、相手に物を渡そうとしたりする○いやいやをしたり、バイバイをしたりする○褒めてもらうと喜んだり、行動を止められることが分かるようになったりする		
	体	 ○手で持つ、渡す、投げる、置くなどをする ○つかまり立ちをしたり、伝い歩きをしたり、物から手を放して一人で立ったりする ○四つばい、高ばい、お座り、つかまり立ちなど自由に姿勢を変える ○睡眠リズムが安定し、午後の1回寝に移行していく ○手づかみで食べようとする ○コップを両手で持って飲もうとしたり、大人がスプーンを持つ手に、手を添えたりする 		
経験させたい主な活動	・はいはい、高ばいを十分に行う(トンネル、坂、階段等) ・模倣遊びをする(「いないいないばあ」等) ・まてまて遊びを保育者とする(追いかけっこ) ・手指を使う玩具で遊ぶ(ポットン落とし、ガラガラ、積み木等) ・絵本を保育者に読んでもらったり、自分で開いたりする ・身体を動かして遊ぶ(手遊び・歌・体操・リズム遊び等) ・探索活動、戸外遊び、感触遊びを楽しむ			

- ・子どもの発声や指さしに気付き応答することが、子どもの言葉を育むことを伝える。
- ・はいはい等の経験を十分行う大切さを知らせる。
- ・子どもの日々の変化を伝え合い、成長の喜びを共感する。
- ・子どもの育ちは一人ひとり違うことを知らせ、保護者の思いに寄り添い、それぞれに応じた配慮 や支援を行う。
- ・家庭・保育所で身体的な発達や、食事の様子を伝え合いながら離乳食を進める。
- ・探索活動や体の動きが活発になるので、動いてもひっかかりにくい伸縮性のある衣類を使用したり、事故の予防のためにの安全について知らせたりする。
- ・感染症や予防接種の情報を知らせ、感染予防や罹患した時の具体的な対応を伝える。

・子どもの発語や指さしの意味を理解し、言葉で共感する ・身近な物の名称や、動作を言葉にして伝えていく ・保育者が先回りせず、指さし等子どもからの要求を待ち、意志や要求が高まるようにする 知 ・子どもが触りたい、遊びたい、試したいと意欲がもてるような玩具を用意する の視点から ・絵本への興味がもてるような環境を用意し、自分で手にしたり保育者に読んでもらったりす る ・素材に触れ、感触を楽しめるようにする。(紙・砂・土・水・布等) ・つかむ、引っ張る、はがすなど手指を使って遊べる環境を整える ・用具(水性ペン等)を握ってかく環境を用意し、経験させる(点々や往復運動) 教 ・音楽に合わせて保育者が体を動かすことを見せ、まねながら体を動かす楽しさを知らせる 育 的 意 ・保育者の語りかけや、働きかけで気持ちの共感ができるように応答的に関わる 徳 図 ・身近にいる他児に興味・関心がもてるように名前を呼んだり、日々の生活を共にしたりし 視点か を ながら他児の存在を知らせていく 事例 2 ŧ ・日常の挨拶や物が欲しいときなど「ちょうだい」「どうぞ」「ありがとう」などの言葉を保育 者が一緒に言いながらやり取りし、他児と関わる機会を作っていく 0 た 働 ・はいはい、高ばい、つかまり立ち、伝い歩き等、移動運動が十分できるよう環境を整える き ・生活リズムを整え、一定時間安定して眠れるようにする カン ・こぼしながらも自分で食べる意欲がもてるように見守ったり言葉をかけたりする け ・「カミカミゴックン」と言いながら大人が口を動かし見せるなど、具体的な方法を知らせる 体の ・一人ひとりの排尿感覚を把握し、おむつが汚れたら優しく言葉がけをしながら交換し、心地 よさを感じられるようにする 視点から ・睡眠中は、うつ伏せにしないよう体位変換し、寝具の掛け方や、呼吸・顔色・嘔吐の有無等、 睡眠状態をきめ細かく観察し、窒息等の事故を予防する ・探索活動や体の動きが活発になるので、事故の予防のために安全面に気を付ける ・おもちゃの消毒を定期的に行い、衛生面に気を付ける ・避難訓練の際には、不安感を与えないようにしながら、抱っこ・おんぶ・避難車等で避難し 安全を確保する

〇・1歳児カリキュラム

(1歳頃 ~ 1歳3か月頃)

ねらい	○簡単な言葉や動作のやり取りを楽しむ○空腹を感じて食事をしたり、眠くなって午睡をとったりするなど、欲求が満たされて満足する○体を動かして遊ぶ楽しさや、探索する楽しさを十分に味わう	
		発達のめやす(1歳頃~ 1歳3か月頃)
子どもの育ち	知	 ○簡単な言葉と動作が結びつくようになる ○欲しい物があると、「ちょうだい」としぐさや言葉で表す ○小さい物を拾って穴に入れるなど、目と手を協応させた細かい動きができるようになってくる ○2~3個の積み木を積む ○小さなものを見付けると触ってみようとする ○玉通し、型落としをしようとする ○物を出したり、入れたりすることを喜ぶ(ティッシュペーパーを出し入れするなど) ○保育者のすることに興味をもったり、まねをしようとしたりする ○音楽に合わせて体を動かす
	徳	○いつも一緒にいる保育者に甘えたり、思い通りにならないと泣いて助けを求めたりする ○保育者の反応を楽しみながら、物を介してのやり取りを、何度も繰り返す ○自分の誕生日を祝ってもらう喜びを感じる
	体	○つかまり立ち、伝い歩きをしたり、はいはいで階段の上り下りをしたりする ○一人で立てるようになり、何度も繰り返す ○自分で1歩を踏み出してみたり、両手を上げて、2、3歩歩いたりする ○手の指が細かく動くようになり、親指と人差し指でつまめるようになる ○午睡は1日1回となり、睡眠のリズムが安定し、一定時間ぐっすり眠る ○「かみかみごっくん」が上手になり、完了食になる。 ○スプーンやフォークを使って、保育者に手伝ってもらったり自分で食べようとしたりする ○助けられながら、自分でコップを持って飲む
経験させたい主な活動	・基本的な運動機能の発達を促すために、全身を使う遊びをする(箱に入ったり、出たりを繰り返す・大箱を押して歩く・まてまて遊び・階段をはって上り下り・遊具を引いて歩く) ・手指の機能を高めるために、手指を使った遊びをする(シールはがし・積み木を積む・ティッシュペーパーを出し入れする・絵本をめくる・コップ重ね・型はめ・ポットン落とし・なぐりがき)・感触遊びを楽しむ(砂・水・紙)・布の動きを楽しむ・人形遊びをする・絵カード・絵本を使って絵に注目する	

- ・伝い歩きや一人歩きをし始めるので、転倒に気を付けながら、動く楽しさや探索する楽しさを十分 に味わうことの大切さを伝える。
- ・身体発育や運動機能の発育には、個人差があることを知らせ、特に歩行に関して敏感になることの ないよう子どもの状況に合わせて、焦らず、優しく接し、安心して過ごせるような関わりを大事で あることを伝える。
- ・歩行にスムーズに移行できるように、はいはいを十分にできる環境や機会を保障してもらう。
- ・離乳食の移行の際は、初めて食べる食材を家で試してもらい、状況を伝えてもらうとともに、咀嚼 や飲み込みの状態を確認しながら完了食へ移行していくようにする。

教育的意図をもった働きかけ	知の視点から	・子どもの指さしや自己表現を受け止め、共感して言葉で伝える ・探索が楽しめるような玩具などを用意し、興味、関心を広げる ・子どもの自発的な活動を大切にしながら、保育者がしてみせるなど、一緒に関わって遊ぶ 事例3
	徳の視点から	 一人ひとりのペースで好きな玩具や遊びが見つけられるようにゆったりと関わり、気持ちや行動を受け止める 保育者や友達に親しみの気持ちがもてるように、一緒に関わって遊ぶ機会をつくる 一人ひとりの状態を把握し、大人が先回りし過ぎずに待ち、子どもが自分の意思を表す機会を大事にする できたことを一緒に喜び、満足感や意欲を引き出していく 子どもの発見や驚きを保育者も一緒に受け止め、共感していく 自分の誕生日をたくさんの人に祝ってもらうことで、愛されているという自尊感情につなげる
	体の視点から	 ・身体発育や運動機能の発達には、個人差が大きいことを考慮に入れ、一人ひとりの状況を 把握し、個々に応じた発達を促す環境や機会をつくっていく ・手指の機能を高めるために、つまんだり容器から出し入れしたりして楽しめるものを用意する ・安全面に気を付け、事故の予防に努める ・睡眠中は、うつ伏せにならないよう体位変換し、寝具の掛け方や呼吸・顔色・嘔吐の有無等、睡眠状態を常に観察し、記録するなどして窒息等の事故を予防する ・こぼしながらも一人でスプーンや手づかみで食べる意欲を引き出すような言葉がけをする

(1歳3か月頃 ~ 1歳6か月頃)

	• • • • •	
ねらい	○いろいろな自然物に触れ、五感を十分に働かせて遊ぶ○一人ひとりの欲求を十分に満たしてもらうことで、満足感を味わう○身近な物への興味、関心をもち、探索活動を十分に楽しむ	
		発達のめやす(1歳3か月頃~ 1歳6か月頃)
子どもの育ち	知	 ○物の名前を覚え始め、片言が盛んになる ○語尾をまねたり、「ちょうだい」と言われて応えて差し出したりする ○自分の名前や友達の名前が分かってくる ○四足動物は「ワンワン」、乗り物は「ブーブ」、食べ物は「マンマ」等、共通する特徴をもつグループの名称としての言葉が出てくる ○「ワンワンは、どれ?」等と聞かれると自分の気に入った物を指さして答えることが多いが、聞かれた物を視線で捉えることもし始める ○積み木を3個以上積むことができるようになる ○行動範囲とともに興味が広がり、探索活動が盛んになる ○両手で遊具を持ち、打ち鳴らす ○歌に合わせて手をたたいたり、保育者をまねたりしながらよく聞く歌を一緒に歌おうとする ○お気に入りの絵本や、お気に入りのページを何度も読んで欲しがる
	徳	 ○保育者と一緒にふれあい遊びをすることを喜ぶ ○自分が普段してもらっていることを人形やぬいぐるみを使って再現遊びをする (両手で布を広げて人形にかける・人形を寝かしつける) ○自己の要求が高まり、簡単な言葉や指さし、しぐさで表す姿が見られる ○自分の思い通りにならなかったり、自分の欲しい玩具を他の子どもが使っていたりした時に、要求の衝突が起こる ○泣いている子どもがいると、顔をのぞき込んだり、頭をなでたりする
	体	 ○基本的な運動機能が発達する (歩く、押す、走る、跳ぶ、しゃがむ、登る、後ずさりをする、つま先立ちをするなど) ○転がったボールを追いかける ○体の向きの転換ができるようになり、滑り台では、お腹をつけて足から滑る ○階段を手すりにつかまって足踏み式で上る ○物をよけて回り込んだり方向転換したりして、行きたい場所に行くことができる ○左右の手を協調して動かす ○こぼすことも多いが、コップを持って飲めるようになる ○上手握りでスプーンやフォークを持って飲めるようとする ○自分で食べようという意欲が芽生える ○オムツではあるが、排泄した後で動作や表情で表す ○ズボンに足を入れたら立ち上がって引っ張るなど、自分でしようとする気持ちが芽生える